

岡崎民報

13.6.09
No. 1146

岡崎市広幡町の一
Tel 23の3337
Fax 21の0712
日本共産党岡崎委員会

胎児に影響を及ぼす大人の風しん ワクチン補助が 予算化

全国的に風しんの流行が続いており、県内においても風しん患者が急増しています。妊娠した女性が風しんにかかると、難聴、白内障、心疾患（先天性風しん症候群）の子どもが生まれる可能性があります。

風しんの流行と先天性風しん症候群（※）の発生を抑えるため、愛知県は、5月16日、接種料の4分の1（上限2500円）を決め、市町村でも助成の加算が検討されてきました。

岡崎市は、6月3日、開会中の6月議会に助成実施のための補正予算案を提案しました。

6月24日の最終日に可決されれば、県と同額の4分の1が助成され、本人負担は2分の1となり一千万円の予防接種が5千円で受けられるようになります。

●対象者

岡崎市に住民登録のある方で、妊娠を予定又は希望する女性及びその夫（ただし、妊娠中

の女性及び風しんのり患歴があるかたを除く）

●対象ワクチン

風しんワクチン又は麻しん風しん混合ワクチンのいずれか1回

●助成金額

上限5千円（ただし、接種費用が5千円未満の場合は、接種にかかった費用）

●申請期間

平成25年7月1日～平成26

年3月31日（助成対象は平成25年6月1日以降に接種したかた）

●申請方法

医療機関にてワクチン接種後、申請書及び領収書（原本）を平成26年3月31日までに保健所へ提出する

なお、申請の際には、医療機関で発行された領収書（予防接種を受けた方の氏名、ワクチン名、支払金額、接種年月日が記載されているもの）が必要となりますので、なくさないようご注意ください。

●周知方法

7月1日付市政だより、医療機関のポスター、支所にポスター

※ 先天性風しん症候群とは

妊婦とくに、妊娠初期の女性が風疹にかかると、胎児が風疹ウイルスに感染し、難聴、心疾患、白内障、そして精神や身体の発達の遅れ等の障害をもつた赤ちゃんが生まれる可能性があります。これらの障害を先天性風疹症候群といいます。先天性風疹症候群をもった赤ちゃんがこれらすべての障害をもつとは限らず、これらの障害のうちの二つか三つのみを持つ場合もあり、気づかれるまでに時間がかかることもあります。（感染症情報センターホームページより）

参議院選挙勝利へ!

岡崎で演説会

佐々木憲昭衆議院議員と
もとむら伸子さん勝利への訴え



6月1日、甲山会館において、日本共産党演説会 in 岡崎が開催され、佐々木憲昭衆議院議員と県党原発ゼロ運動部長のもとむら伸子さんが訴えました。

佐々木憲昭衆議院議員からは、アベノミクスで景気が良くなるどころか、株価は暴落・不安定になってきている、国民に景気がよくなった実感はないなど国会での生の話を交え、経済問題をくわしく語り、政治の大転換で国民の所得を増やす政策に！そのためにも、5人の比例候補と愛知ではもとむら伸子さんを国会に！と訴えました。

もとむら伸子さんからは、被爆者であり党専従でもあったお父さんに勧められ党に入ったきっかけと、八田ひろ子参議院議員の秘書時代、段ボールを廊下に敷いて仮眠を取りながら質問原稿を作った苦労話や、海上の森や名古屋の藤前干潟の開発をストップさせた喜びが語られました。

7月4日公示、21日投票という日程がほぼ確定となった参議院選挙で、「今度こそ日本共産党が躍進し、消費税増税ストップ・TPP参加阻止・原発ゼロ・働く人の賃金引き上げなどを実現するためにがんばろう」と会場は参加者の思いでいっぱいになりました。

政治革新の道しるべ
真実つたえ希望はこぼ

しんぶん 赤旗

日刊●月 3400円
日曜版●月 800円

期日前投票の期間短縮 投票の機会 縮めるもの

岡崎市では7月に行われる参議院選挙から、7つの支所で行っている期日前投票の期間を選挙期間の半分の8日間に短縮することを決定しました。

国民が民主主義を行使する選挙権の機会を減らすことになりません。

現在は、8つの支所で公示日の翌日から投票日前日までの朝8時半から夜8時まで期日前投票を行っています。

岡崎市選挙管理委員会は、「現在、支所単位に各学区総代

会長に投票立会人選出を依頼

している。参議院選挙は従事時間が長く、負担が大きい。人選に苦慮して、期間中複数回にわたり立会人を依頼している場合もある。結局総代等が選出されるケースが多く見られ、地元の負担軽減のために期日前投票の期間を縮小することに

した」としています。また、市職員も、割り当てられた投票所で事務従事者を選出し、7月執行で季節から、災害対応のための体制を確保す

ることとの調整が必要」ももう一つの理由としています。

民主党の国民への裏切りもあり、選挙への関心が薄くなり、投票率が下がっている今こそ、行政として投票率を上げる努力をするべきであり、期日前投票の期間を減らすことはそれに逆行するものです。

人選は総代会任せにせず、市のOBへの協力依頼など、行政自らも人選を行うべきです。

また、職員は「行政改革」の名の下に岡崎市でも保育士・看護師・医師・消防職員以外の職員数を大幅に減らし、臨時雇用を増やしてきた結果、こうした

ところで行政サービスの低下どなっています。日本共産党市議団は、民主的選挙の実施のため

めに、期日前投票期間をもとに戻すよう申し入れを行います。

やってきました 平和行進 「核廃絶」の思いとロシマへ

5月のゴールデンウィークに東京夢の島を出発した平和行進が6月2日、岡崎市にやってきました。

今年は休日と言うこともあり、130名あまりが参加。各自色とりどりの宣伝物やのぼりを掲げ、沿道の家々や通行人に「核兵器をなくしましょう」「原発をなくしましょう」と訴え、安城白山神社までの約6.5kmを歩きました。



参議院議員

井上さとし

橋下発言で首相をただす



5月15日、予算委集中審議で質問に立ち、日本の侵略戦争や橋下氏の慰安婦問題発言への認識をただしました。

安倍総理は、午前中の他党への答弁で、橋下氏の発言について、「政府と立場は違う」とはいうものの、「従軍慰安婦が必要だった」ということを否定するのか、認めるのかはあいまいにいたしました。よし、ここをさらにただそうと、原稿を補強して午後の質疑にのぞみました。

私は、まず、橋下発言が、女性を性の道具、戦争遂行の道具にして当然だというものであり、被害者を再び傷つけ、女性全体の人権を踏みにじるものだと指摘。公人としての資格が厳しく問われていると強調。安倍内閣の閣僚が「タイミングが悪い」とか「当時は必用だからあったのだろうが、今、強調すべきことか」などと発言していることを示し「橋下発言のタイミングは悪いが、中身は問題ないというのが安倍内閣の立場か」とただしました。

それでも総理は「立場が違う」「他党の発言なので」と繰り返すばかりで、最後まで、「従軍慰安婦が必要だった」ということを否定しませんでした。私は、海外メディアが、橋下発言と安倍氏のこの間の言動を一体のものとして紹介しましたが、総理自らがそのことを浮き彫りにしました。

橋下発言への厳しい世論の広がりを見た自民党は、自分たちが同根であることが国民の前にさらされることがよほど恐れているのでしょう。激しいヤジが飛び質問になりました。

終了後、たくさんの皆さんからメールや電話で激励をいただきました。「良かった」という声とともに「質問時間が短すぎる」という声も。参院選で勝利して議席を増やし、質問時間をもっと増やしたいと改めて痛感しました。

「毎日」に掲載された、元兵士・猪熊さんの話は重要です。「慰安所は日本の軍隊が間違った戦闘意欲を高めるために利用した場所だ」「少年兵だった私は…上官に…『女を買えないやつに敵を殺せるか』と殴られた」というもの。「慰安所」はまさに女性を戦争遂行の道具にするものでした。一方、社説では「女性の尊厳損ね許されぬ」と書いた産経新聞は、今日は一転、橋下発言について「大筋正しいものの舌足らず」という全く逆の内容の記事を掲載。これまで安倍首相ら「靖国派」が主張してきたことと同じと気づいたようです。